

(株) 第一興商 第 33 回番組審議会議事録

○日 時 平成 30 年 8 月 29 日 (水) 16 : 00 ~ 17 : 30

○場 所 (株) 第一興商本社 3F 会議室

○議事内容

- ・ 審議委員会委員長の互選
- ・ スターデジオトピックス
- ・ 番組委員会の承認

○審議課題

- ・ スターデジオ (Ch. 464 J-POP バラード、Ch. 463 洋楽バラード)

2018 年 4 月より編成強化 (長時間編成+日替わり編成)

番組審議会委員・出席一覧 (敬称略) 12 名出席

《委員出席者》

弦 哲也	作曲家
音 好宏	上智大学教授 (議長)
ボブ 佐久間	作曲家/指揮者
伊藤 薫	作詞/作曲家
欠席 1 名	

(株) 第一興商・出席者一覧

保志 忠郊	代表取締役社長
渡邊 泰人	取締役兼上席執行役員

制作本部 BGM 放送部

渡辺 宏	BGM 放送部部长
瀧本 茂	BGM 放送部次長
吉倉 聡	放送制作課課長
細本 正樹	放送制作課リーダー

番組審議会事務局

八巻 任	放送企画課課長
磯部 智子	放送企画課チーフ

議事内容

1. スターデジオトピックス

- 1) 新サービス『スターデジオ Air』の概要説明
- 2) 既存チャンネルの編成強化説明
2018年4月より13チャンネルの編成強化を実施（長時間編成・日替わり編成）

2. 番組審議会の承認事項

- 1) 番組審議会規定
- 2) 放送番組の編集に関する基本計画
- 3) 放送番組の編集の基準

以上、3議案つきまして承認いただいた

3. 番組審議

◇スターデジオ Ch.464「J-POPバラード」、Ch.463「洋楽バラード」について

○放送局説明：

4月より6時間サイクルの長時間編成と、毎日違った楽曲が聴ける日替わり編成を軸に編成強化を実施した。

1980年代から2018年までのヒット曲を中心にオムニバス編成としている。

J-POPバラードでは、往年のヒット曲に特化したカラオケ歌唱喚起に繋がる耳に残る編成内容を、洋楽バラードでは、ムードを保ち店舗のイメージ・会話を邪魔することのない編成内容を心がけています。

名曲は耳に残り、いい意味で聴き流しづらくなります。ポップス、ロック、ソウル等、ジャンルのバランスと、ライトな楽曲を織り交ぜることにより調整しています。

◎審議委員：

J-POPバラードは、80年代から選曲されているようですが、80年代前に遡れない理由が何かあるのでしょうか。

○放送局説明：

70年代は歌謡曲に該当しますので、J-POPのカテゴリーから除外しております。

70年代にも名曲がたくさんございますので非常に悩ましいところです。

◎審議委員：

J-POP バラードですが、少し選曲内容が違うのかなという印象です。

私達が聴いていたバラード曲は、本当にスローでゆったりとして、ピアノと打ち込み、ストリングスが効いている楽曲でしたので、バラードというより J-POP 寄りの選曲だと思いました。

平原綾香の『Jupiter』、Dreams Come True の『LOVE LOVE LOVE』など、私達でも知っているような名曲を選曲された方がよいかと思います。

知らない曲が多く、80年代以降の選曲ということが私は気になりました。

洋楽バラードは、昔はスタンダード JAZZ が多く、70年代にリリースされたリンダ・ロンシュタット / ホワッツ・ニューはとても綺麗なアレンジで、革命的なバラードだと当時大きな話題になりました。

良い悪いは別として、ヒット・チャートにこだわりすぎているような気がします。

日替わり編成するのであれば、『ボディー・ガード』など、映画音楽も視野に入れると幅が広がるのではないのでしょうか。探せば本当によいバラード曲がたくさんありますので、歌詞で選曲するのではなく心に響くようなメロディーやアレンジなど、少し意識いただければと思います。

◎審議委員：

ジャンル分けはとても難しいです。J-POP バラードで『愛が生まれた日』、『SWEET 19 BLUES』、『愛を込めて花束を』が選曲されておりますが、こちらもバラードではないかなという印象です。

『SWEET 19 BLUES』と『愛が生まれた日』が2曲並べてかかると、音慣れしている方からすればチャンネルが変わったかな？と思われるかもしれません。ただ、バラードのチャンネルでこういう曲が流れるのだと思ってもらえればそれでよいかなと思います。

洋楽バラードは、昔はバラードヒット曲が数多くありましたが、2010年以降はボーカルメインのバラード曲が減っているような気がします。

質問なのですが、最近のバラードヒット曲はございますか？

○放送局説明：

洋楽ですと、ダンス系ミュージックが流行りです。

◎審議委員：

そうすると発売年で分けていくと選曲に偏りが出てしまうのは仕方ないと思います。

まずは様々な楽曲を選曲してはいかがでしょうか。

聞き流し難くなるとお話しされておりましたが、店舗で流れる音楽は、聴き入ってしまうと店舗にとってはよくないということなののでしょうか。

○放送局説明：

会話の妨げになるということのようです。何か流れているなどと思われるようなライトな選曲を望まれる店舗が多いです。

◎審議委員：

むしろ聞き流してほしいということなののでしょうか？

○放送局説明：

聴き入ってしまいますと、お客様との会話に集中できなくなるということのようです。

◎審議委員：

確かに J-POP は歌詞が耳に入るので、音楽を聴いてしまいますよね。洋楽は英語なので分からないですね。

◎審議委員：

アルバムに収録されている名曲の方が、むしろよいのかもしれませんがね。
ボサノヴァだからなんとなく雰囲気いいなあとか、フレンチなども何を歌っているか分からないわけで、会話の妨げにはならないですよ。
このようなご意見があるということ、初めて知りました。ただ、ヒット曲は歌いたくなりますしカラオケの歌唱意欲は湧きますね。
その場合はヒット曲の方がよいですよ。難しいですね。

○放送局説明：

80年代、90年代、2000年代の J-POP 年代別チャンネルですが、4月よりそれぞれの年代ランキングの集計を見直し、上位ヒット曲に凝縮しました。お客様からはご好評をいただいております。

◎審議委員：

聞き流しの件も、とても参考になりました。
テンポ・リズム、80年代、女性アーティストなどの仕分けは分かりやすいですが、バラード・フュージョン、ジャズなどは、時代によってジャンルも曖昧になっておりますので、仕分けは難しいかなと思います。
ただ、分けようが無いのも事実ですので、今後も自信を持って選曲していただければと思います。

◎審議委員：

想定する視聴者層が40代～50代となっており、絞って選曲されていると思います。それぞれ好みがあると思いますが、1週間、1カ月で流れているわけではなく、日替わりでどんどん組み替えしているということですので、適切かと思います。

また店舗につきましても、カラオケ・施設・スナック・バー・居酒屋と絞ってありますが、音源を聴かせていただいた個人的な意見としては、スナック・バーでは、バラードを聴きながらグラスを傾けると、1杯が2杯になり、2杯が3杯になっていくと思いますし、居酒屋ですとバラードは退屈するのではと感じます。

視聴者の聴く場所によって、リズムなど大切になると思います。第一興商スターデジオの本質というのは、耳で楽しんでいただき歌唱意欲を掻き立てる、そして音にするというのが本線で、歌に繋がることが一番だと思っています。

カラオケファンは、アップテンポでノリのよい歌を好まれる方、歌唱に自信がある方はバラードを好まれる方と、二手に分かれると思いますが、この2チャンネルは教科書のような、勉強になるチャンネルだと思います。

選曲が変わって、次はどんなバラード曲が流れるのか非常に楽しみでわくわくするチャンネルだと思います。是非今後も選曲をがんばっていただければと思います。

◎審議委員：

80年代以降の世代分けをされているのですね。

仕分け方法としてはヒット曲をどれだけ入れ込めるか、曲の特色に合わせた並べ方をするぐらいの選択肢しか実はないのではないかと思います。

利用者の方々のご意見をうかがっているとの事ですので、“店舗によってこのような音楽がよい”など今後もヒアリングをしていけば、ひとつのフォーマットが見えてくるのではないかと思います。

○放送局説明：

数々のご意見ありがとうございます。

以上